

アレルギー対策論点整理(案)

主 な 論 点	備 考
第一 アレルギー対策の基本的方向性	
<p>○ 今までのアレルギー対策についてどのように評価するか。また、今後アレルギー疾患を克服するためには、どのような基本的方向性を持っていくべきか。</p>	

第二 研究の推進 一 効果的かつ効率的な研究推進体制の構築	
<ul style="list-style-type: none"> ○ アレルギーの研究の状況はどうなっているのか。 ○ 研究目標に基づいた戦略的な研究がなされているか。 ○ 現在の問題点に合った適切な公募課題が設定されているか。 ○ 研究課題の評価システムは十分に機能しているといえるか。問題点はなにか。どのように対応すべきか。 	
二 今後重点化すべき研究分野	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標設定をして戦略的に研究を推進していくためには、今後どのような分野を重点化し、その優先順位をどのように考えていくのか。 ○ 患者が自己管理できるようにしていくためにはどのような研究を行っていくべきか。その際、 <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーの病態や発症機序に関してはどのような課題が考えられるのか。 ・アレルギーの予防に関してはどのような課題が考えられるのか。 ・正しい診療を行うためにはどのような技術を開発する必要があるか。 ・治療法の開発に関してはどのような課題が考えられるのか。 ・疫学的な知見は十分か。 ○ 将来的にアレルギー疾患克服を目標とするならば、どのような研究戦略を考えるべきか。 	

第三 医薬品の開発促進等

- 厚生労働省における研究と医薬品開発との連携は充分行われているか。連携を進める上でどのような課題が考えられ、どのように解決すべきか。

<p>第四 医療提供体制の整備</p> <p>一 医療提供体制</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ アレルギー疾患別に応じた適切な医療体制が確保されているのか。その際、地域においては医療体制を体系立てて計画的に整理すること等によってその確保に努めるべきではないか。 ○ 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎・花粉症、食物アレルギーそれぞれについて患者が疾患について自己管理できるようにするためにはどのような医療体制等を具体的に確保すべきか。 ○ 気管支喘息重責発作等に対する医療体制づくりをどのようにとるべきか。 	
<p>二 人材育成</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な医療が確保されるよう医療従事者・医学生等に対してどのような取組を行っていくべきか。 	

第五 患者QOLの向上等

- 患者が疾患を自己管理するためにはどのような教育等の支援が必要か。
- 適切な疾患管理が可能となるよう患者を取り巻く保育所・職場等ではどのような協力や支援等が必要となるのか。

第六 情報提供・相談体制 一 情報提供の体制整備	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、アレルギーに関する情報提供の内容及び提供手法は適切か。適切でないとするればその理由はなにか。 ○ 正しい情報をどのように提供していくべきか。 ○ 住民に身近な市町村の役割は大きいと考えるが、市町村、都道府県、国各々どのような役割分担で対応すべきか。 	
二 相談体制の整備	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者及びその家族がアレルギーについて相談できる窓口の設置状況は十分か。 ○ 窓口の設置はどのような体制が効果的か。(都道府県に限らず市町村での対応は困難か。また、どのような相談対応がよいか。) ○ アレルギーの予防等のためにはどのような相談を実施すべきか。 ○ アレルギー相談員はどのように養成すべきか。 	

第七 患者を取り巻く環境の改善	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 食物アレルギー等の観点からどのようなアレルゲン対策を講じる必要があるか。 ○ 住環境に対してどのようなアレルゲン対策を講じる必要があるか。 	
第八 関係機関との連携	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 国や都道府県がアレルギー対策を推進していく上でどのような機関と連携すべきか。また、連携機関にどのような役割を求めていくのか。 	
第九 その他	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本対策の見直しは何年毎に必要か。 	

リウマチ対策論点整理(案)

主 な 論 点	備 考
第一 リウマチ対策の基本的方向性	
<p>○ 今までの関節リウマチ対策についてどのように評価するか。また、今後関節リウマチを克服するためには、どのような基本的方向性を持っていくべきか。</p>	

第二 研究の推進 一 効果的かつ効率的な研究推進体制の構築	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 関節リウマチの研究の状況はどうなっているのか。 ○ 研究目標に基づいた戦略的な研究がなされているか。 ○ 現在の問題点に合った適切な公募課題が設定されているか。 ○ 研究課題の評価システムは十分に機能しているといえるか。問題点はなにか。 どのように対応すべきか。 	
二 今後重点化すべき研究分野	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標設定をして戦略的に研究を推進していくためには、今後どのような分野を重点化し、その優先順位をどのように考えていくのか。 ○ 重症化防止のためにどのような研究を行っていくべきか。 ○ 将来的に関節リウマチ克服を目標とするならば、どのような研究戦略を考えるべきか。 	

第三 医薬品の開発促進等

- 厚生労働省における研究と医薬品開発との連携は充分行われているか。連携を進める上でどのような課題が考えられ、どのように解決すべきか。

<p>第四 医療提供体制の整備</p> <p>一 医療提供体制</p>	
<p>○ 関節リウマチに応じた適切な医療体制が確保されているのか。その際、地域においては医療体制を体系立てて計画的に整理すること等によってその確保に努めるべきではないか。</p> <p>○ 具体的にどのような医療体制をとればよいか。</p> <p>○ 在宅医療に求められることは何か。</p> <p>○ 地域におけるリハビリテーション体制はどのように考えるべきか。</p>	
<p>二 人材育成</p>	
<p>○ 適切な医療が確保されるよう医療従事者・医学生等に対してどのような取組を行っていくべきか。</p>	

第五 患者QOLの向上と自立等

- 患者が疾患を自己管理するためにはどのような教育等の支援が必要か。
- 現在難病患者等居宅生活支援事業等が実施されているが、これらを活用し、患者のQOLを向上させるためにどのように自立支援を図っていくのか。

第六 情報提供・相談体制 一 情報提供の体制整備	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、リウマチに関する情報提供の内容及び提供手法は適切か。適切でないとするればその理由はなにか。 ○ 正しい情報をどのように提供していくべきか。 ○ 住民に身近な市町村の役割は大きいと考えるが、市町村、都道府県、国各々どのような役割分担で対応すべきか。 	
二 相談体制の整備	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者及びその家族がリウマチについて相談できる窓口の設置状況は十分か。 ○ 窓口の設置はどのような体制が効果的か。(都道府県に限らず市町村での対応は困難か。どのような相談対応がよいか。) ○ リウマチ患者に対してどのような相談を実施すべきか。 ○ リウマチ相談員はどのように養成すべきか。 	

第七 関係機関との連携	
○ 国や都道府県がリウマチ対策を推進していく上でどのような機関と連携すべきか。また、連携機関にどのような役割を求めていくのか。	
第八 その他	
○ 本対策の見直しは何年毎に必要か。	